三島北沢亜鉛工場跡地は今！

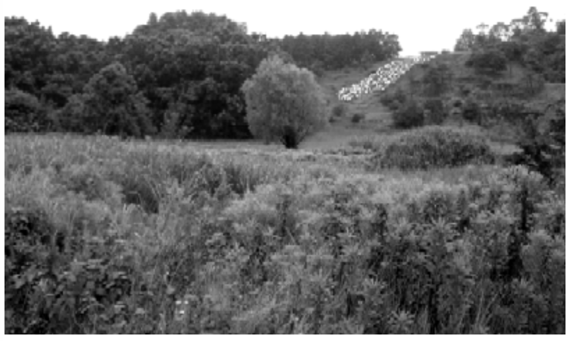
－90年間、鉱滓汚染は放置されたまま－

三島市北沢、向山小学校の南側に亜鉛精錬工場の跡地がある。今から90年位前、大正時代の初期に操業を始めたが、周囲に公害を撒き散らし、わずか数年では操業停止した。その後、工場跡地には鉱滓が放置され、周囲は、亜鉛、銅、鉛、カドミウム等の重金属汚染にさらされ、現在もその状態が続いているという。

亜鉛工場跡地の敷地は5万7千5百平方メートル。今では雑草が生い茂り、周囲には立木が青々と生い茂っているが、北側の小高くなった裸山や東側の一部には鉱滓汚染のためか、草木も生えない茶色の地肌をさらけ出している。

現在の土地所有者は真田興産となっているが、大正時代操業を始めたのは亜鉛電解工業（株）。戦後、所有権は東京機械製作所に移った。土地はそのまま放置され、1980年頃、三島市は跡地所有者に残土処理を求めた。

1992年12月、真田興産が宅地造成用地として購入。96年、真田興産は、土壌汚染修復アセスメント報告書を市と県に提出した。その後、真田興産は跡地修復工事について地元説明会を行い、市に土地利用事業承認申請書を提出した。



97年、三島市は真田興産の土地利用事業申請を受け、土壌汚染に係る協定書案を承認するが、03年8月、協定書はやっと締結された。しかし、土壌修復工事は進まず停滞したまま現在に至っている。

工場跡地は1983年、三島市により土壌・水質検査が行われ多量の亜鉛、銅、カドミウムが検出された。しかし、その後に至っても、何らの対応策もほどこされない状況が続いた。

汚染状況を調べるため、1996年、当時、沼津高専の勝沢教授が工場跡地やそれにつながる水路底部、近くの田畑の土壌分析を行なった。検査は蛍光X線法による分析で、それによると、工場跡地の鉱滓では資料1Kg中に含まれる各金属㎎の平均は、亜鉛二四万、カドミウム千五百、銅一万三千、鉛七万というかなり高い汚染度であった。

水田土壌中の重金属分析の基準値として富山土壌では亜鉛約百、カドミウム約〇・三、銅約一七、鉛約二〇である。

2003年、三島市は真田興産との協定書に基づき、土壌修復工事を客観的に評価するため、建設技術研究所に土壌分析の委託を行なった。その結果は、敷地内では亜鉛が基準値を最大5・8倍上回るだけで、カドミウム、鉛等は何れも基準値以内。また、水路等への溶出量も基準値以内で問題ないとの結論を出した。蛍光X線法は精度が悪く比較にならないという。

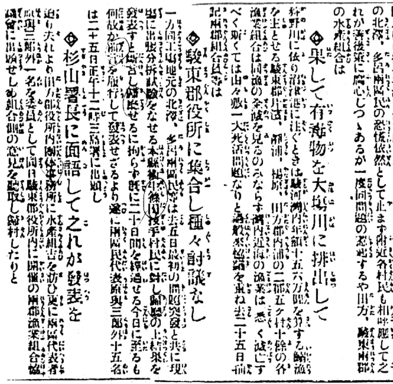
当時の土壌調査結果は次のようであった。

単位は㎎／Kg
（　）内は基準値
亜鉛（120）
　15～19000
鉛（150）
　34～200000
カドミウム（150）
　0・3～300

工場跡地は、三島市第3次総合計画（H13～22）では、「環境改善エリア」として位置付けられており、1983年の土壌調査結果は部分的に高い濃度の重金属が検出されたとしていたが、03年に同地区周辺井戸水の調査結果は、基準を超える物質は検出されなかったとしている。

左は当時、北沢の亜鉛工場の公害について伝える静岡民有新聞記事だが、「漁業は全滅せんか」とのタイトルで、「鉱毒問題はその後、北沢、多呂両区民の恐怖依然として止まず・・・」などと報じている。

真田興産は当初、宅地造成の目的で工場跡地を取得したが、当の会長は昨年亡くなり、跡地利用は行き詰ったと聞く。三島市としては今後、跡地対策をどのように考えるのだろうか。



漁業は全滅せんか

亜鉛電解會社伊豆精錬場鑛毒問題

漁業組合と村民相呼應して奔走す

果して有毒物を大場川に排出して

駿東郡役所に集合し種々討議なし

杉山署長に面語して之れが發表を

静岡民友新聞　大正7年3月27日

6月上旬発行予定の「みしま市民新聞」は、多忙を極め、やむなく発行中止と致しました。読者の方々には深くお詫びいたします。

編集人

三島市学校給食完全米飯化に一言！

〈やかまし母さん〉

先日、子供が1枚のプリントを持ち帰ってきた。「保護者の皆様へ～完全米飯給食に向けて～」そこには、来年度から完全米飯給食を目指すとあった。

この事が昨年十二月に新聞報道されて以来いつ広報に載るかと持っていたが、四月に入って関係保護者のみにプリントが配られただけ。とても残念だ。

新聞報道以後の現場の動きや他の保護者の意見も気になっていたので、昨年度の最後の懇談会で話を聞いてみたが、驚いたことに保護者だけでなく担任の先生も初耳との事。また今年二月、末娘の入学説明会の時に給食の話はあったが、米飯化についての説明は一切なかった。市民感覚からすれば、新聞報道＝正式発表。なのにそれを広報に載せないのは何故？浸透させないのは何故？うさん臭いと感じたのは私だけだろうか。

聞けばこの決定は現場の意見を一切聞かず、一握りの人が検討会で提案したものをそのまま採用したとの事。家庭でもパンや麺よりご飯の方が準備、配膳、食事、片付け全てにわたり大変だ。いわんや給食をや。そういった現実的な問題を無視した机上の論理が否応なしに下りてきた現場の方達はやり切れないと思う。それに、残留農薬だらけの全粒粉パンよりずっとマシという意見も聞くものの、子供や保護者の殆どは、米飯も多く取り入れつつ国際色に富んだ今のメニューが理想的だと考えている。

国の政策としても給食の米飯化を進め、給食の完全米飯化は余剰米の消費や食料自給率の上昇に繋がると宣伝されているが、一方で農家への減反要請は今だに続いている。

これだけ食料の自給率が騒がれているというのに、減反に従わなければ補助金が受けられないという厳しいペナルティつき。減反で一度荒た休耕地が復旧するにはかなりの時間と手間がかかる。そうなれば消費を促進しても米の輸入が増えるのは目に見えている。

また、給食が和食化する反動で、家庭での洋食化が進んでしまうという懸念もある。我が家でも子供達が「給食がご飯だけになったら、家でパンや麺を増やしてね」と話している。肥満が増えているのは洋食化のせいとあるが、給食を和食化したところでそれが解消できるとは到底思えない。

本当に食育先進都市を目指すのであれば、全国に先駆けて国策を推進するだけでなく、三島市独自の揺るがぬビジョンを持って堂々とやって頂きたい。そして願わくば、米パンや米麺を取り入れたバラエティ豊かなメニューで、子供たちの心を満たして欲しい。

原発はいらない⑤

どんなエネルギーを使いたいですか？

みしま原発を学ぶ会

今年はじめ、「電気のゴミを考えよう」という集会に参加しました。

「電気のゴミ」というのは原発から出る使用済燃料のことでした。100万㌗級の原発が1基を1年間運転すると、22トンもの高レベル放射性廃棄物が出ます。これを再処理した一番危険な高レベル廃棄物はガラスに溶かして固められ、高さ1・3m、外径約40cmのガラス固化体になります。強烈な放射線が出ていて人は近づけないので、遠隔操作で取り扱います。これを金属性の容器にいれ、粘土の緩衝材で覆い、300mより深い地層に埋めて処理する計画だそうです。

出席した資源エネルギー庁の人は「安全な処分方法です」と言っていました。日本にはもう2万本以上のガラス固化体が作れるほどの高レベル放射性廃棄物がたまっているのです。

しかし、既に98年、アメリカで唯一の処分場候補地であったユッカマウンテンで、地下水の経路が掌握されぬまま、流速と流体体積が著しく過小評価され、人間が近づける場所まで放射能汚染水が、わずか3日間で到達してしまう事などが判明したそうです。案の定、オバマ大統領は計画を撤回しました。

ドイツでは見えない地下処分するより、見える地上で保管する方法に移行しつつありますが、莫大な容器コストがかかるそうです。まして、日本では地震の多い国です。これ以上放射性廃棄物を増やしたくありません。

若い世代の出席者も「これからはどんなエネルギーを使いたいかということを考えて行きたい」と発言していました。

私たちの電気料金に上乗せされている「電源開発促進税」は4800億円以上にも上りますが、原子力への配分に偏り、太陽光、風力、地熱、波力、バイオマス等の自然エネルギーへは少ないのです。こうした政策をまず改めてもらいましょう。そして欧米のように自然エネルギー事業等による雇用の創出・拡大に早く力を入れて頂きたいと思います。

〈SY〉

介護デイサービス

あい和（あいあい）

TEL055-943-9022

三島警察の近くに介護デイサービスの事業所「あい和」がある。オープンしたのは4月15日。事業主は徳倉小学校の近くで十数年前から訪問介護サービス「（有）めぐみの家」をやっている日野さん。

「あい和」では定員8名の小規模デイサービス事業を行なっている。一般住宅を借りて、内部を若干改装した。全てバリアフリーが優しい住宅だが、資金面で階段はそのまま。発想を変えて「段差がリハビリ」利用者に〝段差〟を意識してもらうことで「頭を使う・足を上げる」など、生活する中で自然にリハビリをしようという考え方。もちろんスタッフの目配り・気配り・声かけが重要になってくる。

現状ではまだ利用者も少なく、軌道に乗っていないが、毎月1回行なっているお茶会にはご近所の参加も呼びかけ、今月から障がい者へのデイ開放を月1回スタートさせた。

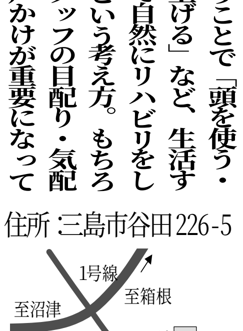
受け入れは、介護認定を受けた方（介護保険適用）・受けてない方（自費）、車椅子、認知症、若年性認知症の方々。

看護師による血圧、脈拍等の健康チェックや個別機能訓練、口腔ケアなどができる。三島・函南送迎あり。

営業日・時間、月～土、9時～16時。

〈デイサービス利用料〉
通所介護（6時間～8時間）
一日当たり
要介護1…　790円
要介護2…　922円
要介護3…1055円
要介護4…1187円
要介護5…1320円

住所 三島市谷田226-5



― 場所に ―

核廃絶説くオバマ氏の声つよし「プラハの春」
　を越えきし古都を
華やぎて六月開港告ぐる声強制収用の地を伝
　わりてくる
一六年開港までの日々を問う抗らいし自死も
　そこにはありて
磔刑のキリスト像をふと思う立ち木一七九の
　静かな倒死
阿修羅像見しその昂まりを胸におき日ぐれビ
　ルの谷間を帰る

浅野　和子

楽々パソコン教室のご案内
毎週水曜日　夜
生涯学習センター
５Ｆ（パソコン教室）
午後7時～8時半
月4千円、1回1000円
【個別指導対応】
ワード、エクセル、デジカメ、
画像処理、ホームページ作成等
連絡先：055-986-1301（勝俣）

三島どんぐり合唱団 創立55周年）
愛と平和を歌う　音楽会
7月11日（土）午後6開場►6:30開演
会場 三島市民文化会館（小ホール）
第1部　平和の歌、その手の中に、人間の歌・・・他
第2部　みんなで歌おう、野に咲く花のように・・・他
第3部　悪魔の飽食「静岡合唱団」
第4部　55周年特別企画合唱
指揮／岩本達明・縣　政四
ピアノ／岩本晃子・高田良子
入場料：一般１５００円　学生７００円
後援：三島市・三島市教育委員会
　　　三島地区合唱協議会
連絡先：篠崎正男　055-972-6222

伊豆市民劇場３１７回例会＜俳優座公演＞
『春忍び難きを』
昭和２０年、敗戦の年の１２月、信州松本の里山の庄屋に敗戦の食料難で子供達やその家族が帰郷してくる。そして農地改革の嵐がこの村にも押し寄せてきた・・・。
作／斉藤　憐　演出／佐藤　信
出演／小笠原　良知・川口　敦子
2009年7月30日（木）
開演:18時30分／終演21時35分
会場 三島市民文化会館大ホール
連絡先：電話 975-5455
　　　　FAX 981-3422

みしま 源氏物語を読む会
と　き：毎月第1・3月曜日（月2回）
午前10時15分～11時45分
ところ：三島商工会議所 会議室
内　容：『源氏物語』　使用テキスト角川文庫
会　費：月2000円（テキスト・資料代・講師料等含む）
＊使用テキスト等は会で用意します。
問い合わせ：『源氏物語を読む会』055-972-4953

三島自然を守る会　自然観察会
7/26（日）10～15時
講師：工藤周一さん（地質学会員、自然を守る会）
内容：「境川・大場川の流路変遷」
集合：青木橋西たもと（車の人は事前に連絡を）
費用：高校生以上：500円
★昼食は各自持参。歩きやすい靴、服装など
★誰でも参加できます。お気軽にどうぞ！
連絡先：055-988-1926